
蘇る『戦士』と『悪魔』

Hiro

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

蘇る『戦士』と『悪魔』

【Nコード】

N7242Y

【作者名】

Hiro

【あらすじ】

ワルプルギスの夜との決戦に勝利して魔法少女の戦いは終わった。誰一人欠ける事無くハッピーエンドを迎えた少女達。

しかし、新たな脅威が近づきつつある事は誰も知らない。

注意）この小説は『絶望の終焉／仮面の戦士と魔法少女』の続編です。

プロローグ（前書き）

ワルブルギスの夜との戦いを終えて、確かな幸せを噛み締める少年少女達。

これからの見滝原で何が起きるのかは誰も知らない。

蘇る『戦士』と『悪魔』

始まります。

プロローグ

ワルブルギスの夜との決戦から三日後、決戦の場所に居た全てのメンバーは見滝原総合病院に入院していた。

あの戦い以降、暁美ほむらや巴マミ、佐倉杏子の三人の魔法少女は、美樹さやかと同じように魔法少女の力を失っていた。

上条当麻も、仮面ライダーに変身出来なくなっていた。

実質、戦えるのは仮面ライダーWと仮面ライダーアクセルのみだったが、魔女との戦いを終えた彼女達にとって戦う力は必要なかった。

力を失ったのは、見滝原市に平和が訪れたからだと考える少女達。

現在の見滝原市には、ドーパントの存在といった問題が残っているが、財団？の切り札と思われる仮面ライダーエターナルや仮面ライダーAWを倒したことから、それほど危険視される様な問題でも無かった。

ちなみに、仮面ライダーAWに変身していた少年は左翔太郎達に保護されて、現在は彼等と共にいる。

入院していた彼等に対して、鹿目家の面々と鹿目まどかと美樹さやかの親友である志築仁美が頻繁にお見舞いに来ていた。

退院したら、志築仁美の家でパーティーをするという約束をする一同。

ワルブルギスの夜は仮面ライダー？のマキシマムドライブによって、本来の人間に戻った。

しかし、少女は身寄りが無いらしく、バマミと一緒に暮らすことになった。

ちなみに、佐倉杏子もバマミと一緒に暮らすことになり、また彼女は鹿目まどかと美樹さやか、バマミと上条当麻に説得されて見滝原中学校に通うことが決定した。

退院してから、忙しくなりそうだが少女達はそのことを純粹に喜んでいた。

プロフィール（前書き）

主「本当に今更ですが彼等のプロフィールを始めさせていただきます」

上条「幾らなんでも適当じゃないか？このプロフィール…」

主「本当にすいませんでしたあ！！」

プロフィール

上条当麻

見滝原中学校の三年生

相変わらずの不幸体質だが、フラグ体質も健在

魔女との戦いの際には、仮面ライダー？に変身して戦っていたが、現在はその力が失われている模様

鹿目まどか

見滝原中学校の二年生

心優しく友達想いの少女

他人の為に身体一つで戦う上条に憧れを抱いている

美樹さやか

見滝原中学校の二年生

元魔法少女の一人

失恋して自分の道を見失っていたが周囲の努力により元気を取り戻した

巴マミ

見滝原中学校の三年生

元魔法少女の一人

自分を何度も助けてくれた上条に淡い想いを抱いている

佐倉杏子

見滝原中学校の二年生

元魔法少女の一人

決して折れる事無く他人を救う為に戦い続ける上条に一種の憧れのようなものを抱いている

暁美ほむら

見滝原中学校の二年生

元魔法少女の一人

まどかを救ってくれた上条に恩を感じている

志築仁美

見滝原中学校の二年生

鹿目まどかと美樹さやかの親友

不良から助けてくれた上条に好意を持っている

左翔太郎

鳴海探偵所の探偵

肉体労働担当

中身は良くも悪くもお人好しの三枚目であり、ハーフボイルド呼ばわりされることもある

仮面ライダーという名前に誇りを持っている

フィリップ

左翔太郎の相棒

頭脳労働担当

『地球の本棚』にアクセス出来る唯一の人間

頭脳労働担当だが戦えないというわけではない

照井竜

風都署の刑事

若くして警視に就任するなど非常に高い能力を備えている

以前は、復讐の為に仮面ライダーアクセルとして戦っていたが、翔太郎達の尽力により風都を守る存在として活躍している

ちなみに、鳴海亜樹子とは結婚している

鳴海亜樹子

鳴海探偵事務所の所長

照井竜とは結婚しているが、見滝原では旧姓である鳴海亜樹子を名乗っている

天道真

大道克己のクローン

黒い仮面ライダーエターナルに変身して、上条達と死闘を繰り広げていたが、彼等によって倒される

その後、翔太郎達の提案により鳴海探偵事務所の一員となる

第1話 平和

病院に入院してから数日が過ぎて、ワルプルギスの夜との戦いの場
にいたメンバーは全員無事に退院した。

ちなみに、上条が病院内でフラグを乱立したことはまどか達には知
られていない。

病院を退院したメンバー達は早速、志築仁美の実家に向かった。

ちなみに、仮面ライダーAWだった少年とワルプルギスの夜だった
少女も彼等に同行していた。

仁美の実家に到着した一同は…

上条「でけえ…」

翔太郎「お嬢様だとは思ってたけどな…」

亜樹子「すごい…」

さやか「相変わらず大きいわね」

志築仁美の実家の大きさに圧倒される一同。

鹿目まどかと美樹さやかは、彼女の実家に訪れたことがあるのだが、
未だに慣れていないようだった。

まどか「とりあえず仁美ちゃんに来たことを伝えようか」

まどかはそう言ってチャイムを鳴らす。

仁美「ようこそおいで下さいました」

さやか「おつす」

まどか「こんにちは」

仁美に案内されて屋敷の中に入る一同。

仁美「皆さんには言いそびれていたのですが…」

そう言つて仁美が一同をとある場所に案内する。
そこには…

さやか「これつて…！？」

まどか「仁美ちゃんが話してた巨大クワガタ！？」

仁美が一同を案内した場所には巨大なクワガタがいた。
一般的なクワガタとは明らかに異なる大きさのクワガタ。

翔太郎「何だ…これ…？」

上条「クワガタ？」

照井「ドーパントではないのか？」

仁美「この子は前に私を助けてくれたんです」

フィリップ「このクワガタが？」

仁美「ええ。以前、怪人に襲われたのですが…」

まどか「仁美ちゃん大丈夫だったの!？」

さやか「怪人ってドーパントじゃ…」

仁美「このクワガタさんがその怪人を撃退してくれたのです」

上条「そうだったのか…」

翔太郎「フィリップ。このクワガタはドーパントなのか？」

フィリップ「分からないけど…このクワガタは単なる巨大なクワガタじゃないみたいだ」

照井「それにどことなく機械的だからな」

亜樹子「でも…仁美ちゃんを助けてくれたってことは、このクワガタはきつと良い子だよ」

仁美「そうですね」

彼等に巨大なクワガタを紹介した仁美は、パーティの準備が出来ていると話して彼等をパーティ会場に案内した。

会場に到着した一同は、並べられた料理を見て溜息をついた。

上条「すげえ…」

マミ「凄く気合が入っているわね…」

杏子「腹減った…」

仁美「どうぞ。ご自由にお食べください」

さやか「待ってました!!」

仁美の言葉を待ってたといわんばかりに、食事にありつくさやか。そんな彼女を見ていた一同も、すぐさま食事にありついた。

専属シェフの作る料理は非常に美味しいらしく、招待された一同は満足していた。

高級な料理を食べようとしていた上条だったが、凄まじい速度で食べる杏子に料理を奪われていた。

上条「不幸だ…」

仁美「あの…上条さん…」

上条「ん?どうしたんだ?」

仁美「まどかさん達を守って頂きありがとうございました」

上条「俺はまどか達を守れてなんかいなかったさ」

仁美「え?」

上条「あいつらが無事だったのは、あいつらが強かったからだよ」

仁美「…そうですね」

上条と話す仁美の顔が若干赤いことには、少年が気付く筈もない。少年と少女が話している頃、暁美ほむらは鹿目まどかと美樹さやか

に誘われて料理を食べていた。

少女は自分がもう魔法を使えないことを実感する。しかし、最早時間を繰り返す必要など微塵も無く、戦う必要が無いのだと安堵するのだった。

天道真と『AW』だった少年、ワルプルギスの夜だった少女も並べられた食事を食べていた。

パーティが終了してそれぞれの自宅に帰った一同。

バミと佐倉杏子は自宅にマンションに向けて帰って行った。

マンションに到着してワルプルギスの夜だった少女を寝かしつけた二人は、今日の出来事について話していた。

杏子「いやー今日は楽しかったな」

バミ「ふふ…そうね」

杏子「それにしても、あたしも明日から女子中学生か…なんか緊張するな…」

バミ「大丈夫よ。私や上条君もサポートするから」

杏子「ありがとよ。そーいやバミ」

バミ「何かしら佐倉さん？」

杏子「その佐倉さんってのやめてくれねえか？何か他人行儀でむず痒いんだよ」

バミ「え…じゃ…じゃあ杏子さんでいいかしら？」

杏子「さん付けがなんとも言えないけど…まあいいか」

苦笑いする二人だったが、突然佐倉杏子が巴マミにある質問をする。

杏子「マミ…これからお前はどつする？」

マミ「え？」

杏子「ドーパントとの戦いだよ。あたし等は魔法少女の力を失ったけど…」

マミ「私は…これからも戦おうと思う」

杏子「今のあんたに出来ることなんてたかが知れてるぞ？」

マミ「それでもよ。私はドーパント達から皆を守りたいから」

杏子「そっか…」

マミ「そういうアナタはどうなの？」

杏子「あんたと同じだよ」

マミ「そう…」

杏子「あたしもあんたも戦いの経験は豊富だから、それなりに戦えるだろうさ」

マミ「そうね…ってもうこんな時間ね…そろそろ寝なくちゃ…」

杏子「そうだな」

佐倉杏子と巴マミが今後の予定について話している頃、美樹さやか
は自室のベッドに入って今日の出来事を思い出していた。

さやか「今日はとても楽しかったな」杏子も明日から学校に通
うらしいし」

魔法少女の存在を知ってから、様々な出来事があったが、こうして
『今』を迎えられていることが何よりも喜ばしかった。

さやか「（それにしても上条さん…仁美と楽しそうに話して…）」

志築仁美と楽しそうに話している上条当麻の姿を思い出して、若干
不機嫌になる美樹さやか。

さやか「（…何考えてんのよあたし!?別に上条さんが誰と付き合
おうが関係ないし…）」

慌てて自分の考えを否定する少女。

さやか「（とにかく!…とつと寝なきゃ!）」

その頃、警察寮に居る左翔太郎達は…

翔太郎「どうだフィリップ?」

フィリップ「やっぱりだめだ…検索しても当てはまらない…」

照井「あのクワガタも上条と同じ『イレギュラー』ということか?」

フィリップ「断定は出来ないけど、その可能性は高いだろうね」

亜樹子「上条君と同じで害はないのかな？」

翔太郎「それは分からないが…」

フィリップ「あのクワガタは何者かに作られた可能性が非常に高いだろうね」

照井「誰が何の為に？」

フィリップ「それは分からないよ」

亜樹子「ガジェットにしては大きすぎるし…」

巨大なクワガタの正体に全く検討がつかない一同は困り果てていた。

その頃、鹿目家では…

まどか「それでね…！」

知久「そんなことがあったんだね」

当麻「まどか…もうそろそろ寝ないと明日に響くぞ…」

父である知久に今日の出来事を話すまどか。

その様子を見ていた上条がまどかに注意していた。

鹿目まどかにとって、何気ない日々は待ち望んでいたものであり、それがようやく戻ってきた少女はテンションが上がっていたのだ。

まどか「もうこんな時間なんだ…」

知久「また明日聞くからね…」

まどか「うん…おやすみなさい…パパ…」

これからの生活に胸を躍らせる一同だったが、見滝原に忍び寄る危機には誰も気付いていなかった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7242y/>

蘇る『戦士』と『悪魔』

2011年11月24日17時49分発行